

使徒言行録 19章 32節～40節。さて、群衆はあれやこれやとわめき立てた。集会は混乱するだけで、大多数の者は何のために集まったのかさえ分からなかった。そのとき、ユダヤ人が前へ押し出したアレクサンドロという男に、群衆の中のある者たちが話すように促したので、彼は手で制し、群衆に向かって弁明しようとした。しかし、彼がユダヤであると知った群衆は一斉に、「エフェソ人のアルテミスは偉い方」と二時間ほども叫び続けた。そこで、町の書記官が群衆をなだめて言った。「エフェソの諸君、エフェソの町が、偉大なアルテミスの神殿と天から降って来た御神体との守り役であることを、知らない者はないのだ。これを否定することはできないのだから、静かにしなさい。決して無謀なことをしてはならない。諸君がここへ連れて来た者たちは、神殿を荒らしたのでも、我々の女神を冒瀆したのでもない。デメトリオと仲間の職人が、だれかを訴え出たいのなら、決められた日に法廷は開かれるし、地方総督もいることだから、相手を訴え出なさい。それ以外のことで更に要求があるなら、正式な会議で解決してもらうべきである。本日のこの事態に関して、我々は暴動の罪に問われるおそれがある。この無秩序な集会のことで、何一つ弁解する理由はないからだ。」こう言って、書記官は集会を解散させた。

パウロの「手で造ったものなどは神ではない」という宣教は首都エフェソを中心にアジア州に強烈な影響を与えた。エフェソには、豊穡の女神アルテミスを祀る華麗な大神殿があった。アジア州の人々は神殿を誇り、大挙して参拝していた。この神殿の模型を作り、参拝者たちに売って、利益を上げている銀細工師たちがいた。パウロの偶像は神ではないという宣教を受け入れる人々が神殿の模型を買わなくなり、収入が減れば困る。銀細工師のデメトリオは同業者たちを集め、パウロたちによって、自分たちの仕事の評判を落とすだけでなく、アルテミス神殿の御威光も失墜すると煽った。人々は怒り、パウロの同行者二人を捕え、一団となって野外劇場になだれ込んだ。

劇場になだれ込んだ民衆は、あれやこれやとわめきたて、大多数の者たちは何のために集まったのかも分からない大混乱に陥った。群衆心理が騒ぎをさらに大きくした訳である。この時、ユダヤ人が押し出したアレクサンドロという男が、群衆の中のある者たちから、説明するように促された。彼は騒ぐ群衆を手で制して、弁明をしようとした。ところが、彼がパウロと同じユダヤ人であることを知った群衆は弁明を聞きたくないと「エフェソ人のアルテミスは偉い方」と叫び続け、それが2時間ほども続いた。

そこで、町の書記官が立ち上がり、群衆をなだめて「エフェソの諸君」と呼びかけた。エフェソの町が偉大なアルテミス神殿と天から降ってきた御神体との守り役であることを知らない者はいないし、否定することもできないのだから、静かにしなさい、無謀なことをしてはならない。諸君が連れて来たユダヤ人たちは、神殿を荒らしたのでも、我々の女神を冒瀆したのでもない。デメトリオと仲間の職人が訴えたいのなら、法廷は開かれているし、地方総督もいるのだから、相手を訴え出なさい。更に要求があるのなら、正式な会議で解決してもらうべきである。本日の暴動に関して罪に問われるおそれがある。無秩序な集会は弁解できないからだ。書記官はこう言って群衆を解散させた。書記官の対応と発言は正当で、冷静である。エフェソでも、異邦人社会の行政官はクリスチャンを好意的に扱ったと記している。